令和元年度　第１回　廃棄物減量推進部会会議
発言要旨

１　【日　時】　令和元年７月３１日（水）１０：００～１２：００
２　【場　所】　西宮市役所　東館７階　701会議室
３　【出席者】　全10名（欠席者なし）

６　【会議の概要】

出席者自己紹介

環境計画推進パートナーシップ会議委員７名中７名、委員外委員３名中３名の出席があり、会議が成立している旨の報告が行われた。

１．部会長・副部会長の選出について

委員の互選により、部会長に花田委員、副部会長に野島委員を選出した。

２．西宮市ごみ減量推進計画(チャレンジにしのみや25)について

①事務局より、資料２に基づき平成30年度(最終年度)結果報告が行われた。

・事業系ごみの排出量は達成できなかったが、飲食店とその他の事業所などの分析はしているのか（委員）

→一般廃棄物処理基本計画21ページに、事業系ごみのうち紙類の回収率は高いという分析結果が出ている。事業系ごみが多くなった理由としては、平成17年度以降、大型ショッピングセンター等の出店が続き、消費が非常に伸びたことによるものと考えている。（事務局）

→西宮市内に大規模店舗が増えて可燃ごみは増えたかもしれないが、資源化の努力はかなりされていると思う。「大規模店舗が増えたことが原因」と言ってしまうと大規模店舗が悪いことになってしまうので、業態と規模別の資源化量の調査結果を精査すればどの分野が何に弱いかが見えてくるので、対外的にはそのあたりを整理したほうがいい。（委員）

・事業系ごみへの対策は重要だが、排出元に働きかければ減量できるのかは疑問である。事業所単位の実態を把握しない限り、どういう施策が有効かの判断がつかない。難しいとは思うが、実態調査についてどう考えるのか。（委員）

→西宮市内には約１万4,500の事業所があり、業種ごとの事業所数は出ているが、そのリストまでは作成できていなかった。現在それを作成中で、それをもとに実態把握することを考えている。（事務局）

・ガラス類の回収率が低い。その他プラの回収状況はどうか。（委員）

→市民はガラス類を分類して出しているが、パッカー車で収集する途中で割れてしまい、再資源化に回す量がどうしても減ってしまうので、破砕選別施設の建替えの際に、ガラスの再資源化率がアップできる施設にし、収集形態を変えることを予定している。その他プラについては、平成25年度から分別収集を始めているが、平成30年度5,000トンの見込みに対し1,750トンにとどまっている。もやすごみを入れる袋が黒い袋でもいいので、分別意識が高まらないと分析している。（事務局）

・資源化の中では紙類の占める割合が大きく、その量が減っている。その原因の一つに新聞の発行部数が減っていることもあるが、可燃ごみに含まれる紙類の量の推移を見れば、原単位が減っているのか、分別の精度が下がっているのかが判断できる。その分析をすればどうか。（委員）

３．平成30年度のごみ処理状況について

①事務局より、資料３に基づき説明が行われた。

・最終処分量及び率が平成30年度に上がっているが、これはなぜか。（委員）

→最終処分量は処理場からの搬出量で、ピット中の残量があるので、出すタイミングによって年度ごとに増減が出てくる。（事務局）

・災害廃棄物については、早く搬出する必要があるのでなかなか分別が行き届かない。（委員）

・市の処分場に搬入される災害廃棄物にはどういうものがあるのか。（委員）

→昨年の台風では、沿岸部の倉庫にストックされていた小麦粉や卵などの食品類を受けた。それは、職員が現場に出向いて、処理できるものだけを受けている。あとは、風によって折れた枝などを多く受けた。（事務局）

→それ以外の大型のものについては事業者責任になるのか。（委員）

→産廃に当たるものは事業所責任である（事務局）

４．現行施策の進捗状況について

①事務局より、資料４に基づき説明が行われた。

・不適物等混入通知発送数が平成30年度は多いが、これは災害と関係があるのか。（委員）

→災害とは特に関係はない。厳し目に展開検査を行ったことによって件数が増えた。（事務局）

・展開検査を実施した回数に対する通知発送の比率はわかるか。（委員）

→比率は把握していないが、展開検査の件数は変わっていないのに通知発送数は増えているので、見る目が厳しくなった結果と思われる。その率に関しては、今後統計をとってみたい。（事務局）

・展開検査は毎週行っているのか。（委員）

→１台のパッカー車は複数の事業者から集めているので、29年度は、213台の展開検査を行い、混入事例が３件見つかった。（事務局）

→個別指導訪問ではどのような指導をしているのか。（委員）

→不適物が混入している事業者が特定できた場合には、直接訪問したり電話で指導している。平成30年度は、大型複合商業施設には今まで立入調査を行っていなかったので、現状把握も含めて訪問を行った。この８件の中には、展開検査で一定の量に近い事業者が判明した場合に電話で指導した件数も含まれている。今後は、もう少し踏み込んだ調査指導や現状把握を行っていきたい。（事務局）

・事業系ごみを減らすためには消費者の理解が必ず必要になる。消費者教育という観点ではどのようなことをしているのかがこの資料からは見えてこない。コープこうべには食品ロスの学習会の依頼が地域から上がっ

てくるが、行政ではその対応をしてくれるのか。（委員）
→資料４の３ページにある「巡回相談」は、環境衛生協議会からの要望により、職員を地域に派遣して行っている。事業所から食品ロスの学習会や社内教育の要望があれば行きたい。（事務局）
→デパートのパン売場では閉店間際に商品が少ないと苦情が来るらしい。消費者の意識を高めることは大切である。（委員）

５．今後、取り組むべき施策と導入に向けてのスケジュールについて
①事務局より、資料５に基づき説明が行われた。
・「ＳＤＧｓトレイン未来のゆめ・まち号」に掲出予定のポスター案で、みやたんがマイバッグを持っているが、このようなものを市で制作・販売する予定はないのか。（委員）
→市が直接制作・販売する予定はない。（事務局）
→甲子園球場とのタイアップは考えられないか。（委員）
→事務方では、甲子園球場とのタイアップの話は出ている。（事務局）
・コープこうべがフードドライブを常設しているのには驚いた。（委員）
→昨年までの２年間は、年２回(８月・１月)に実施していたが、賞味期限を１か月残したものしか受け入れないことから回数増の要望があり、店舗のオペレーションの負荷もそれほど大きくないので、常設になった。（委員）
・指定袋について、中核市で実施していないのは西宮市だけという状態で、市民の意識も高まってきていると思うが、指定袋への移行を妨げるものは何か。（委員）
→チャレンジにしのみや25の期間中、生活系ごみは目標に向けて減量が進んでいたので、指定袋導入のきっかけがなかなかつかめなかった。ただ、まだ減量できる余地があることと、分別排出が徹底されていない大きな原因が黒いごみ袋にあることから、環境学習都市として一歩踏み込む時が来ていると考えている。（事務局）
・ごみの分別を意識するとごみ量は確実に減ると言われている。そのためにも指定袋は意義がある。（委員）
・環境衛生協議会でも、この２年ほどでごみ袋の話が出てきた。ただ、意向調査をしてみると、現在持っている黒い袋をどう処分するのかという声も多くあり、早くすべきだという地区は半数を超えていないのが現状である。ただ、レジ袋をごみ袋にしている人の声が徐々に小さくなっているので、指定袋になるのもやむを得ないという感じもある。その他プラにおいて、汚れていたり臭いのついているものは回収されないので、中の見えない袋に入れてもやすごみで出せばいいという意識もあり、その点も考える必要がある。（委員）
・ごみはプライベートなものだから見せたくないという意識もあったが、最近は透明袋にすべきという声のほうが多くなっていると感じる。ごみ

減量や分別を意識させるためには、指定袋は必要だと思う。現在でも、店舗で黒い袋が売っていたり、新聞配達店が配っている現状がある。事業所も変わらなければ市民のほうも変われない。（委員）

・事業系一般廃棄物の指定袋制についてはどう考えるか。（委員）

→収集する立場からすると、個人情報の関係から色のついている袋に対しては中身を確認する行為がしにくい。透明・半透明に変えただけでも、不適物が混入していれば現場で指摘できるので、ごみ量は減る。（委員）

→中の見えない黒い袋は、収集する方は怖いと思う。（委員）

→以前は、注射針が混入していてけがをするケースもあった。（委員）

・西宮市ではガラスの収集はどうしているのか。（委員）

→ガラスだけではなく、空缶やフライパン、小型家電を一つのコンテナに入れて収集している。（事務局）

→混在しているから、結果的にガラスが割れてしまう。（委員）

→西宮市の場合は、不燃物を一つのコンテナで一つのパッカー車に入れてしまうので、割れたガラスと瀬戸物は分別不可能になってしまう。割れたガラスのカレットも資源化に回すことが重要であるが、現在の収集方法と処理施設の設備では分けようがないので、市民がせっかく分別して出しても100％資源化できていないのが課題である。（事務局）

・資源化の立場から言うと、どういう収集がありがたいのか。（委員）

→単独のコンテナでの色別の収集だと言われている。（委員）

・資料２ページの「分別区分の見直し」について具体的に聞きたい。（委員）

→瓶のリサイクル率を上げるためには瓶単体で収集するしかないので、その方向で検討している。ただ、収集に係るコストもあるが、新しい破砕選別施設のことを考えると、遅くとも今年度中には結論を出さないといけない。（事務局）

・分別区分は多ければいいというものでもないし、必要最低限の部分はきちんと分けられるようにすることが必要だと思う。（委員）

・他市で瓶の単独収集をしているが、リサイクルの観点に立つといいことだと思う。ただ、コストがかかることと作業負担の問題もあるので、それを補うものを考えてほしい。（委員）

・瓶類の回収に関しても、コンテナで平ボディーで集めれば埋立量はダイレクトに減る。問題は経費であるが、そこは市として決めることである。破砕選別施設の建替えはチャンスであるので、そこに集中すればいいと思う。（委員）

・持込手数料が安過ぎる。高くなればごみを減らす知恵を出すと思う。（委員）

・数年のタイムスケジュールで考えると、特に事業系では、指定袋を導入

して、持込手数料を適正化し、発生源の実態調査をする計画を立てる必要がある。そこまでですると、西宮市でも目に見えて減ることは確かである。個人に負担をかけてしまう面もあるが、その際には、「他市で行っているから」以外の説明をすることが必要である。（委員）

・ごみを減らした人が得をする制度をつくれば減量はできると思う。破砕選別施設の建替えを機会に考えてほしい。（委員）

・資料２ページの「プラごみの発生抑制」の取組みがポスターを掲出するだけで、具体的に何をするのかが分かりにくい。西宮市には阪神間で唯一砂浜があるので、海岸清掃に取り組んではどうか。（委員）

→行政が、プラごみの発生抑制について条例をつくるなど、どこまでできるのかという問題があり、どうしても啓発的なものになる。逆に事業所からいい事例があれば教えていただければ、他の事業所にお知らせすることはできる。（事務局）

→この間、メーカーでは容器包装プラを減らす方向にあり、実績も相当出ている。そこに消費者の意識の高まりが加われば、もっと減らしたほうが得になるという仕組みがつくれるのではないか。（委員）

・海洋プラを減らすためにストローを紙製のものに変えても、実効性は非常に弱い。海洋プラ対策には、発生抑制よりは現にある海洋プラを何とかしたほうがいい。西宮市には砂浜があるのだから、甲子園浜に漂着するごみを拾えばかなりの対策になり、できることとしては一番効果があると思う。そこに価値を感じる市民や事業者が甲子園浜の漂着ごみを集中的に拾ってはどうか。これを環境教育として行うと続けていくことは難しいが、拾っただけ効果があると思えばもう少し元気が出ると思う。（委員）

→甲子園浜には鳥獣保護区があり、釣針などが野鳥に影響を与えている。西宮市では、1994年ぐらいから漂着したレジンペレットなどの展示を行っている。海岸沿いの小学校では、環境教育として野生生物とプラスチックごみの問題を取り上げているが、子供たちが海岸清掃をすると、拾うのは大人が捨てたたばこの吸殻が非常に多い。こういう石油文明に関する教育はほとんどされていないので、危険性をはらんでいることは少なくとも子供のころから教えておかないといけないと思う。（委員）

→ごみの学習をするのは小学校４年生で、４月に教育研修所で教員向けに研修を行う際に、出前授業や施設見学会を周知できるので、今後も周知していきたい。子供にはパッカー車など具体的な物を見せると意識が高くなる。今は「子供が変われば親が変わる時代」になっているので、親子で学習する場も持っていきたい。（委員）

・特定の場所がきれいになる活動は徒労感が増すが、広い目で見るとＳＤＧｓが使える。資料１ページに「プラごみの発生抑制」として、庁内各種会議におけるペットボトル飲料提供の廃止」があるので、各委員には

次回からマイボトルの持参をお願いしたいが、ただお願いするだけではなく、西宮には「みやたん」がいるので、みやたんのマイボトルを作製して配付されればいいと思う。（委員）

・事業所の実態調査はこの中には入っていないのか。（委員）

→まだ施策には入れていない。（事務局）

→一定規模以上の事業所に対しては毎年調査しているので、それも含めて、現状を把握することを施策として入れたほうがいい。（委員）

→大きい事業所については、条例によって減量化の計画書や実績報告を義務付けているので実態把握はできるが、市内事業所のうちの大部分である中小零細事業所の実態把握は全くできていないので、今後実施したい。（事務局）

→市内の実態がわかるとその対策が明確になっていくことを前提に、くみたてるといい。（委員）

・この中には環境学習のことが出ていない。今後取り組むべき施策であることは間違いないと思うので、今後検討してほしい。（委員）

・甲東地区の夏祭りで４つの小学校の児童がごみの分別を手伝ってくれている。小学校４年生でごみの学習はあるが、中学生になると、現状ではトライやる・ウィークか、地域が働きかけて地域の活動に参画する形しかない。何かのきっかけがあれば高校生までつながるが、現状は中学校で切れてしまっている。中学生への働きかけがあると随分と違うと思う。小・中学校とも給食の牛乳パックは資源化しない方向になっているので、きっかけが必要である。（委員）

→授業時間数の関係でなかなか授業に組み込んでいくことは難しいが、今後の課題と考えている。（委員）

→授業に組み込むのではなく、中学生にはこれからも地域に入ってほしい。最近では、高校生もごみの分別で協力してくれている。また、子供のエコ作品の展示会に関学の学生が手伝ってくれた。このように広がっていることは実感している。（委員）

→地域で小さい子がごみ拾いをしていると、大きい子はごみを捨てられなくなる。（委員）

②事務局より、資料５－２に基づき今後のスケジュールについて説明が行われた。

・指定袋の関係は令和４年度開始とかなり先になるので、現在ストックされている黒い袋も使い切れる。（委員）

→周知期間を令和３年度１年間とり、説明の方法もよく検討し、地域での説明会を充実していきたい。（事務局）

→自分の得になることが分かるといいと思う。（委員）

６．その他、連絡事項

①現在市では、プラごみの発生抑制のため庁内各種会議における使い捨て飲

料容器を提供しないことを検討しているので、次回よりできるだけマイボトルを持参いただきたい。

②次回部会は、10月～11月に開催を予定で、組成分析調査の結果報告と、今後実施すべき施策について説明することを考えている。